



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

## 第69号(2010年4月9日)

## 「ニッポンはこもっていない」

ここ数年来世界各国の株式市場と比べると長く低迷を続けてきた日本株式市場がようやく戻り基調になったかのように見えます。昨今の株価上昇の要因は、海外株式市場に比べ日本株が出遅れていた分の修正との見方もあり、日本株式市場が昨年伸び悩んだのは、銀行、通信など内需系の超大型株が低迷していたことにも要因があると考えられ、これらのセクターの戻りが現在の戻り局面において影響しているといった側面もあります。しかしながら、そういった中でも日本の株式市場における新興国関連銘柄等には昨年に倍近く株価が上昇しているものが数多く存在しておりました。このような相場環境においてより高いパフォーマンスを上げるには銘柄選択が非常に重要であったと判断しております。

2010年4月8日付けの日本経済新聞の「こもるなニッポン」という特集記事において、「ものづくり+ $\alpha$ 」と題して、日本企業が中国や韓国の企業に猛追されており、今後はものづくり一点突破ではなくソフトやシステム、すばやいグローバル展開力を重用すべきといった記事が掲載されておりました。

確かに、現在日本企業の国際競争力の低下や新興国企業の台頭などが囁かれております。事実、携帯電話やテレビ、半導体等過去日本企業が高いシェアを誇っていた産業において日本企業の低迷が目立ちます。いわゆるガラパゴス化などと言われているように日本でしか通用しない独自規格にこだわり、国際競争力を失ってしまった産業があるのは事実と考えられます。

しかし全ての業種で日本企業は競争力を失っているのでしょうか。日本企業の中には新興国の企業には真似のできない高い技術力を持った企業や、後発企業が容易に切り崩せない高いブランド力を既に構築し海外で大きな成長を遂げている企業はまだ存在しております。これらの企業は既に日本経済新聞の言うところの「ものづくり+ $\alpha$ 」を実行しており、すばやいグローバル展開により海外市場で高い成長を遂げているため、今後も国際競争を勝ち抜く可能性が高いのではないかと考えられます。

冒頭でも申し上げたように、日本株が低迷していた時期においても新興国関連銘柄の一部は大きく株価を上昇させており、今後も大きな注目テーマになっていく可能性が高いと思われます。そして、このような企業を探し出し投資を行なうことが今後も非常に重要になってくると考えられます。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。